



ふるさとの魅力を発信「わくわくふるさと海峡学」

下関市立養治小学校

1. チャレンジポイント

- 「やまぐちPRIDE」⇔「ようじPRIDE」 **自分の言葉でふるさとの自慢ができる**
- 「本物を体験学習」 **本物を知る 本物から学ぶ そして本物を語る**

2. 取り組んだこと

「わくわくふるさと海峡学」

(1) 海洋教育

- (2) 歴史・文化教育
- (3) 自然・郷土教育
- (4) 下関発祥の文学
- (5) 地域の支援・連携・協働

発見



実働

(1) 海洋教育

- ①市立しものせき水族館「海響館」との連携教育
各学年ごとに6つのテーマを設定
1年「イルカ」2年「ペンギン」3年「フグ」
4年「関門海峡の魚」5年「クジラ」
6年「ふるさと海峡学」
- ②現地で海洋体験学習
釣りを通じた環境学習・巖流島で釣り体験
- ③水産業・海運業見学
唐戸市場、造船所・新造船の見学
- ④博学連携出前授業
水産大学校・下関市立大学・下関市栽培漁業センターとの連携教育

「子どもが地域の先生プロジェクト」

「わくわくふるさと海峡学 オープンスクール」

【令和7年11月15日(土)】

自慢

- ・出前授業【各教室】各学年のテーマに応じた授業※外部講師（同時開催45分）
- ・発表会【体育館】各学年の発表（各学年15分）

気づき 考え 実行する「下関の魅力を楽しく伝えよう！」



1年
イルカの
大ぼうけん

2年
ペンギンに
会いに行こう

3年
フグって
おもしろい！

4年
ビバッ！
関門海峡

5年
下関
5大ブランド

6年
ふるさと
海峡学



3. 取り組んだ成果

- ・子どもと大人が海峡の街下関の魅力をじっくり体感できた。
- ・歩いて行ける身近な場所に歴史や文化、産業があることに驚き、本物と多く出会ってもっと知りたいという気持ちにつながった。



4. 思ったこと、感想

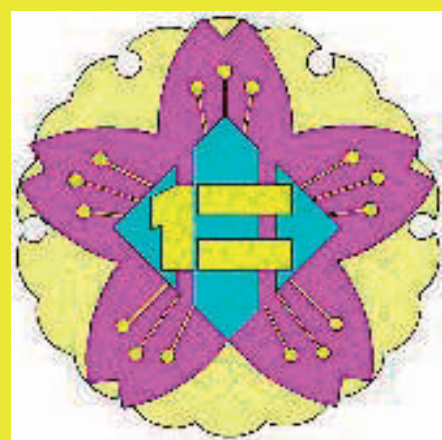
- ・多くの大人に見守られながら、安全に釣りや磯遊びなどを体験することができ、ふるさとをさらに身近に感じる事ができた。
- ・活動の様子をテレビやSNSで多くの方に広く伝えることができた。



5. 今後に向けて

- ・小学校6年間の積み上げになるように計画的に楽しく体験活動を実働しながら、多くの方々に情報を発信していきたい。
- ・校区近辺だけでなく、下関市の歴史ある各地の魅力も学びたい。





「 仁保の魅力伝え隊～アイラブ仁保にこ大作戦 」

山口市立仁保小学校

1. チャレンジポイント

- 仁保のよさを多くの人に知ってもらうための表現・発信をする。
- 仁保の課題を知り、地域のために役立つ取組を行う。
- 仁保を元気にするための取組を行い、仁保のことがもっと好きになる。



2. 取り組んだこと アイラブ仁保にこ大作戦 (学校教育目標：ふるさと仁保を愛する心豊かでたくましい子どもの育成)

1・2年 仁保の人とつながるPJ 仁保とつながり隊

- ・園児とのふれあい活動・お年寄りとの交流・町探検



3年 魅力発信PJ 仁保の自慢伝え隊

【仁保の自慢ビデオ作り】
仁保には自慢がいっぱい！
多くの人に知ってもらいたい！



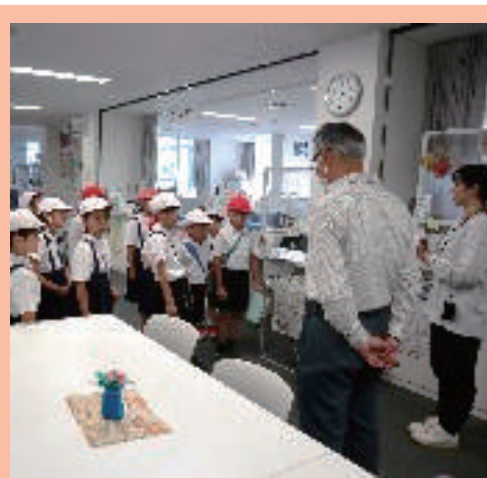
- 去年は自慢マップを作ったんだって。じゃあ今年はビデオを作ろう！
- 交流センターの方からもお願いがあったよ。僕たちがやらなくっちゃ！
- 劇にして仁保の自慢を紹介しよう！自慢が伝わるように台本を書こう。地域の元アナウンサーの方にビデオの作り方を教えてもらうのはどうかな！



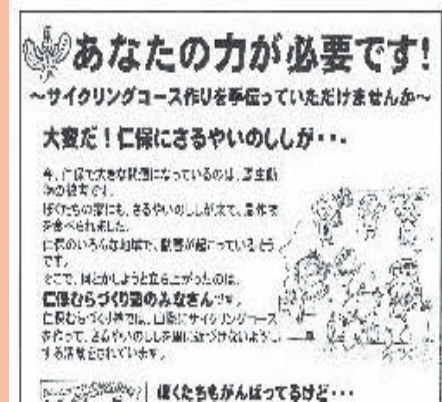
いいビデオができたよ！
仁保の素敵をもっと見つけたい！

4年 仁保を守るPJ 仁保を守り隊

【仁保の人たちのための活動】
仁保の人が猿で困っている…
仁保の人たちの力になりたい！



- 仁保むらづくり塾の人が頑張っている！私たちにもできることはないかな？
- サイクリングコースづくりに協力しよう！
- 地域の人にもインタビューしよう！
- 自分たちだけでは無理だ…地域の人に交流センター便りで地域の人にも協力を呼びかけよう
- プロの方に教えてもらって、何度も作り直してやっとできたぞ！所長さんにもOKもらったよ！



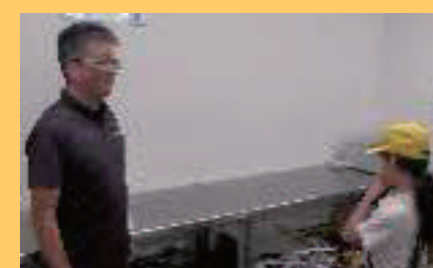
地域の人も頑張っている
自分たちももっと仁保を守りたい！

5年 仁保アピールPJ 仁保を応援し隊

【道の駅で店員体験】
仁保にはおいしい物がいっぱい！
多くの人に食べてもらいたい！



- 仁保の自慢はかじか米・桃ジャム…去年はケーブルTVで仁保の食べ物を紹介したね。今年は仁保の食材をもっとたくさんの人に食べてもらいたい。
- 道の駅で僕たちが販売しよう！
- 1回目の体験 アピールが足りなかった。食材の説明が 足りなかった…
- 2回目に向けて
・のぼり旗やTシャツを作ろう・レシピを作ろう・お米を食べ比べてみよう



地域のために役に立てたかな
仁保を私たちでもっと元気にしたい

全校 仁保元気PJ 仁保の魅力伝え隊

- ・仁保には素敵な人・ものがいっぱい
- ・オリジナルソングを作ってその素敵を発信し、仁保を元気にしたい！

♪オリジナルソング「にこにこ仁保」

仁保小シンボルツリーの下で♪



3. 取り組んだ成果

- 仁保のもの・人・ことのよさを再確認し仁保への愛着が増した。
- 地域の人とのつながりがこれまで以上に深められた。
- 仁保の魅力を主体的に表現したり、発信したりすることで、子どもたちの自信になった。

4. 思ったこと、感想

- 自分たちが考えたことが実現できてうれしかった。
- 地域のために役立つことができてうれしかった。
- もっと地域のためにできることを考え実行したいと思った。

5. 今後に向けて

- もっと仁保の人とつながり、自分たちの力で仁保をもっと元気にしていきたい。
- もっと地域のためにできることを考え、自慢の地域にしていきたい。



1. チャレンジポイント

- 委員会活動を活用し、学んだ成果や取組を地域の方に広げ、活力ある地域づくりに貢献する。
- 学校教育目標「楽しさあふれる島田小学校」さらには「楽しさあふれる島田地域」を地域の方と共に実現する。

2. 取り組んだこと

(1) 『学校かくれんぼ』+『あいさつビンゴ』
inしまりんフェスティバル【運営委員会企画】

- ・校内に隠れた地域の方を探し、あいさつ合格でスタンプゲット。ビンゴ達成を目指す取組。
- ・あいさつのポイントを児童が地域の方に伝え、実際に見てもらうことで感じの良い「あいさつ」を共有。

(2) 大盛況！大成功！！『しまりんスケッチ大会』
in参観日&花いっぱいの日【環境委員会企画】

- ・参観日や月一回の「花いっぱい」の日に、保護者・地域の方と全児童がスケッチ大会を開催。大会当日は、多くの方が参加し、花壇の花や生けた花と一緒にスケッチ。大盛況で、みんなの笑顔が満開に。
- ・スケッチを花壇に設置。学校がより華やかに。
- ・100枚ものスケッチを集め、1つの花束に見立てて掲示。来校者をおもてなし。



(3) 『しまりん盆踊りチャレンジ』

【体育委員会企画】

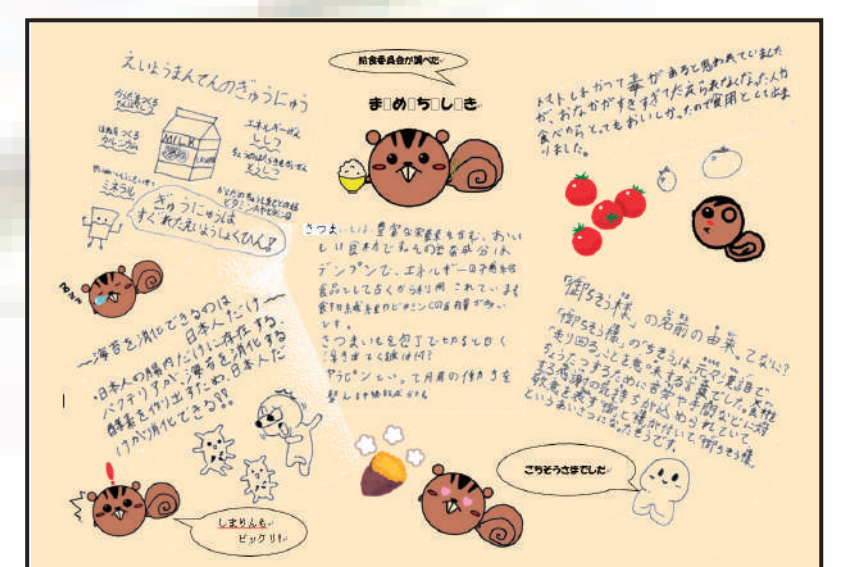
- ・伝統文化を継続していくため、委員会が中心となって地域の方から教わった盆踊りを広めていく取組。
- ・地域の文化祭で踊ることで、踊りを知らない方への継承を次代の担い手の児童と共に実施。
- ・来年の運動会で披露すべく、指導できる児童が中心となって、児童、保護者、地域と広めていく予定。



(4) 子ども食堂(地域食堂)inしまりんフェスティバル

【給食委員会企画】

- ・地域の子ども食堂さんとのコラボで、弁当約200食を提供していただく。地域ボランティアの活動周知と食への関心の喚起が目的。
- ・メニューは委員会児童が校内アンケートで決めるなど、地域の方と協力して作成。
- ・児童が食についての豆知識をまとめたプリントを作り、地域の方に提供される弁当にも活用予定。

(5) 読み聞かせ
inカフェしまりん
【図書委員会企画】

- ・モニターで絵本を投影
- ・委員会児童が配役を決めて読み聞かせ

(6) 『しまりん手洗い』
in学校レストラン
【保健委員会企画】

- ・動画を使って指南後、地域の方と手洗い
- ・その後に一緒に実践タイム！

(7) 折り紙で紅葉づくり
inカフェしまりん
【福祉委員会企画】

- ・紅葉の折り方を地域の方に伝授！
- ・仲良くみんなで折り紙

(8) 『島田人インタビュー』
【放送委員会企画】

- ・地域の方にインタビュー！
- ・すてきな話を引き出すにもテクニックが必要！

3. 取り組んだ成果

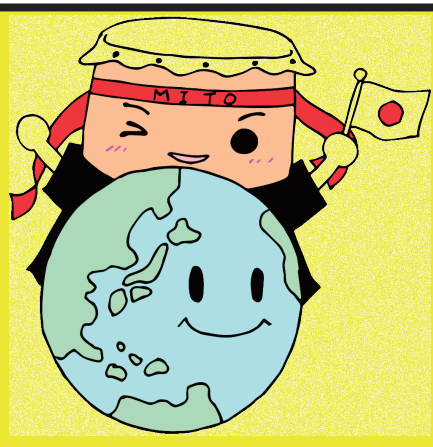
- ・児童が立案し、地域に参画することにより、学校づくり・地域づくりの主体としての意識が高まり、校内外に活気を生んでいる。
- ・地域の方から学ぶだけでなく自分たちから発信し、学びを広げる地域貢献の取組により島田小プライド、島田プライドが芽生えてきた。
- ・児童の地域への関心が高まり、地域行事への積極的参画が増えている。

4. 思ったこと、感想

- ・地域の方々も児童の取組を通して、島田のよさを再実感し、地域の活力が増したように感じる。
- ・学校で行う行事への地域の方の参画と笑顔がとて増えてきた。
- ・学校がよりオープンとなり、地域の方が学びのカフェを開くなど、児童にとっても有意義となる活用が広がっている。

5. 今後に向けて

児童と教育目標を共有し、児童会活動(委員会活動)を取組の柱に位置づけたことで、「島田プライド」なる意識が高まった。今後は、各委員会の取組のよさを各学年・学級に広げ、地域の未来の担い手である子どもたちが地域の方と一緒に「楽しさあふれる島田小」、さらには「楽しさあふれる島田地域」を創っていききたい。



「美東未来学」の挑戦 ～私たちのふるさとを世界へ～

美祢市立美東中学校

0 取組の出発点

地元の誇りの認知度不足

地域資源の魅力発信の弱さ



1 チャレンジポイント

- ・大人と一緒に学び、ふるさとの価値を再認識する。
- ・長登銅山跡の魅力を高め、発信する方法を探究する。

2 「美東未来学」（探究的な学び）3年間の挑戦

リアルに社会や世界とつながる学び

1年 長登の魅力を学び、銅山まっりの訪問客を増やす方法を探究する

- 1 長登銅山跡の歴史を地域の大人と一緒に学ぶ
- 2 チラシ構成を学び、デザインを探究
- 3 町内へチラシを持参。まっりの魅力を説明
- 4 銅山まっりを楽しみつつ集客数を確認



2年 長登銅山まっりで訪問客に魅力を伝え、楽しませる方法を探究する

- 1 ガイド班・銅製錬実験班・企画班に分かれる
- 2 学芸員から銅山跡の歴史や価値を学び、魅力を伝える方法を探究
- 3 銅製錬実験の説明役や子ども向けのイベント企画など、例年にない新たな工夫の実践



3年 これまでの学びをまとめ、ふるさとの誇りを世界に発信する方法を探究する

- 1 3年間の学びをまとめ、授業で英語に翻訳
- 2 地域の大人やALTへガイド。助言を受けて改善
- 3 奈良東大寺にて、約90人へガイド活動を実践
- 4 「金銀銅サミット」に参加。全国の中高生と交流
- 5 国語科の授業で聞き手の心を動かすポスター作成



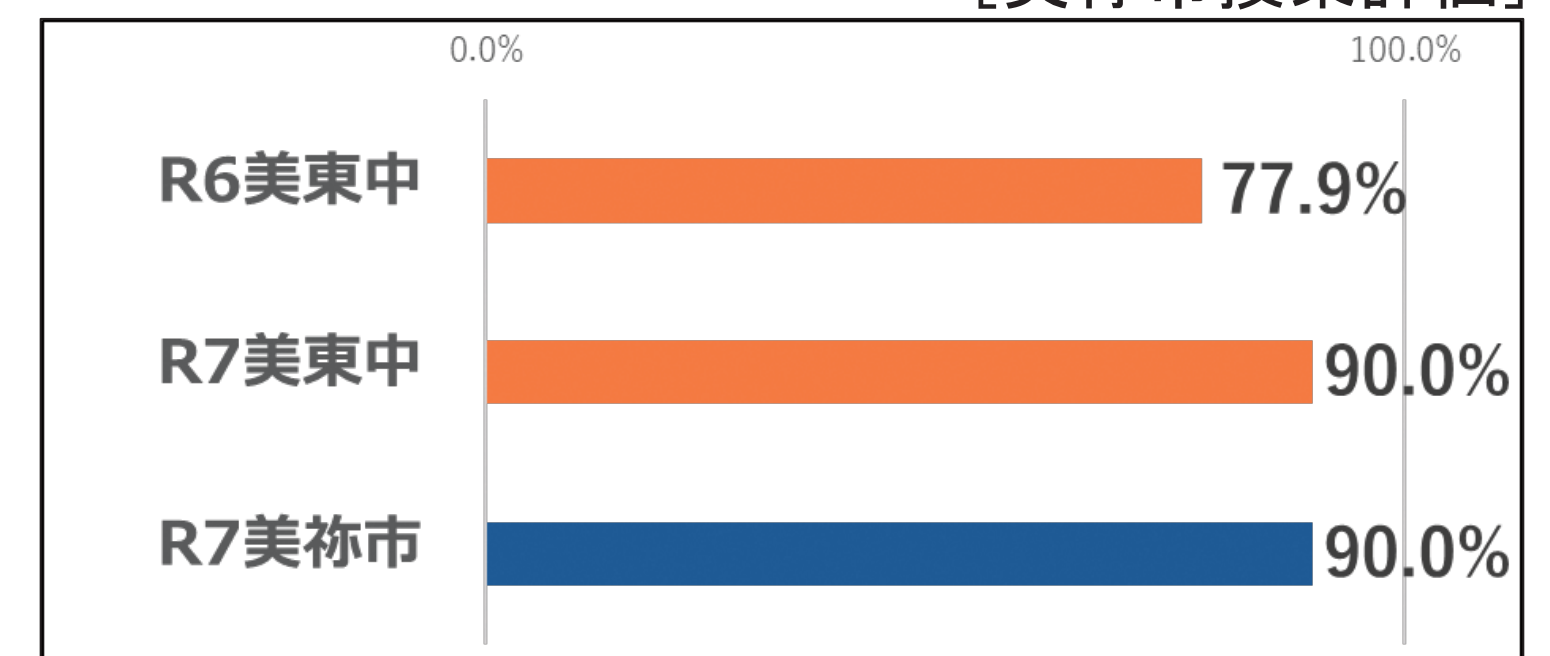
3 学習の成果

- ・大人と一緒に、ふるさとの銅が世界遺産の一部になっていることを深く学び、地域と日本の歴史とのつながりを実感した。ふるさとへの愛着と誇りが一層強まった。
- ・ガイド活動を企画したり、探究の学びを外国人に発信したりして、新しい取組に挑戦することを通し、**自分の学びは人生や社会を良くするために役立つ**という達成感を得た。

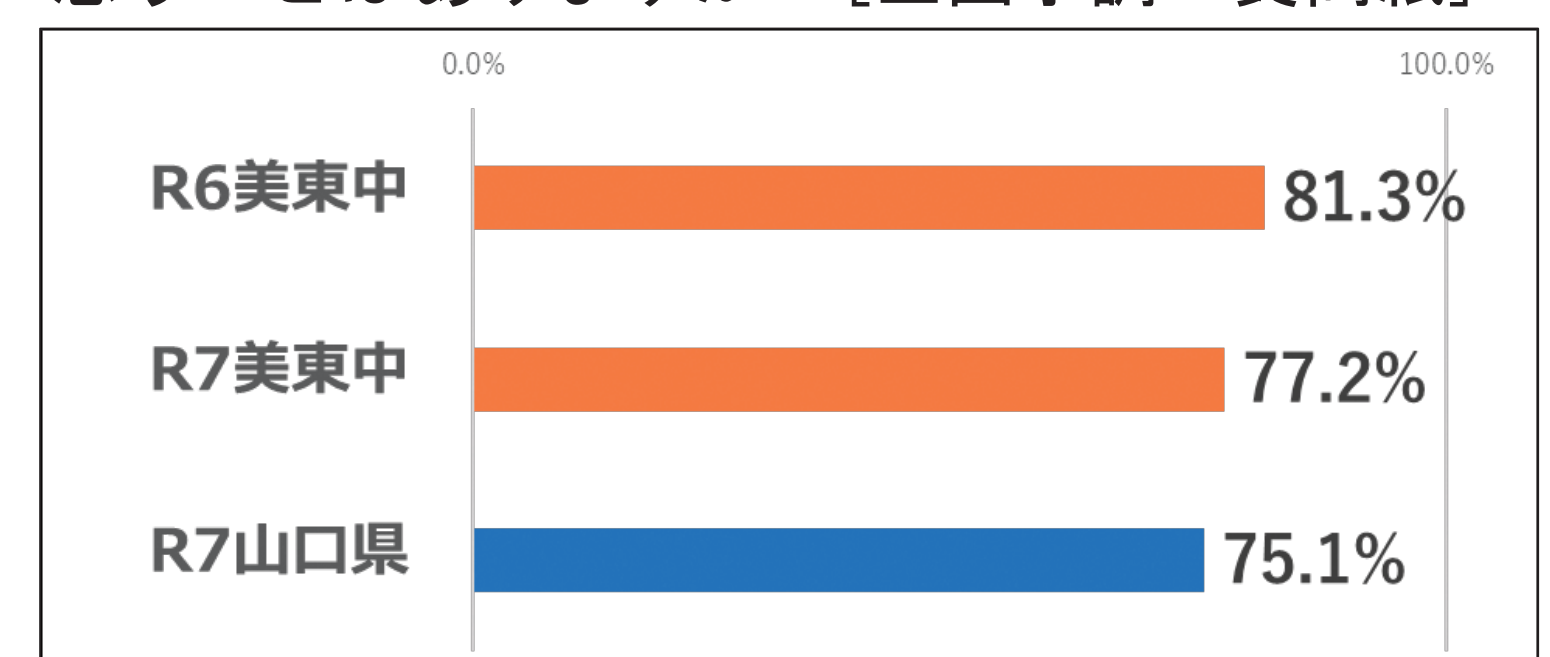
4 感想と未来への決意

- ・NHK World Newsで紹介され、私たちの取組が日本全国そして世界中へ発信されたことが誇らしい。
- ・「美東未来学」で得た達成感を後輩にも味わってほしい。
- ・長登銅山関係者の後継者不足など、地域の課題に自分たちから気づき、大人と一緒に考えられるようになりたい。
- ・美祢市の地域づくりとは「**過去を知り、未来へつなぐこと**」、これから高校生、大学生、そして大人になっても、ふるさとの歴史や文化に関わり続けたい。

ジオ学習を通して、美祢市のよさに気づいた
[美祢市授業評価]



地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うことはありますか [全国学調・質問紙]





災害に強い町をつくろう！ ～上関町オアシス化プロジェクト～

上関町立上関中学校

1. チャレンジポイント

- まずはやってみよう！地域を巻き込んだ避難訓練や避難所設営
- 防災スキルアップ！どんな備えが必要か考えよう！！



イメージキャラクター

2. 取り組んだこと

☆安心して暮らせる心安らぐオアシスのような町へ・・・

背景

巨大地震や土砂災害による危険性の高まり
高齢化率の上昇・自主避難が難しい住民の増加

目的

地域の防災力向上

○避難生活に向けて



防災倉庫の確認

○町役場防災担当の方から



情報収集



ベッド組立体験

○非常食の工夫



調理実習



必要な物の検討

○避難所設営



地域の方・小学生と



過ごしやすい配置



レシピ冊子の作成

○避難訓練・防災教室（地域の方45名参加）



確認カードの配布



家庭への訪問

18軒
訪問



受付・誘導



啓発・提言

3. 成果

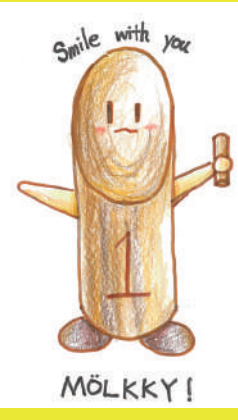
- ・上関町の現状を踏まえて、町全体のことを考えられるようになった。（生徒）
- ・自分たちの活動が、町民に良い影響を与えることを実感することができた。（生徒）
- ・中学生の取組を受けて、自分たちも防災について考え、備えようという意識が高まった。（地域の方）

4. 感想

- ・地域の方の防災に対する意識を高められた。もっと多くの方に学習内容を知らせたい。（生徒）
- ・重要な課題に取り組んでくれてありがたい。中学校の活動として継続してほしい。（地域の方）

5. 今後に向けて

- ・対象地域を変えながら、今回の取組を続けていくことで町全体をオアシス化していく。
- ・心安らぐオアシスのような町にしていきたいために、他にもできることを取り組んでいきたい。



「地域を元気に！みんなで作ろう健康な体・健康な心」

田布施町立田布施中学校



1. チャレンジポイント

- モルックを地域に広め、スポーツの楽しさを地域の方に伝えていく。
- 地域の方々を学校に招待し、地域の方とともに運動をし、健康な体と健康な心を一緒に作っていく。

2. 取り組んだこと

(1) モルック普及活動

- ①田布施農工高校の先生にモルックを教わる
 - ・農工の生徒にモルックの機材をつくっていただく。
- ②小学生にモルックを教える企画を立て、どのように運営するかを検討する
 - ・簡単なルール、時間の設定、ニックネームの名札
- ③会を運営する（7月9日）
 - ・30人の児童を6チームに分け、3会場を準備。
 - ・中学2年生8人が運営を行い、中学1年生6人が補助スタッフとして参加。
- ④アンケートからふり返し、次回の企画を考える
 - ・文化祭や昼休みに、生徒や地域の方々が体験できるブースを開いた。
 - ・名刺を作成し、広報活動を行った。



小学生はおおはしゃぎ



途中からは大人も参加

(2) 学校保健安全委員会

- ①企画を考える
- ②地域の方を招待する方法を考える
 - ・案内チラシを作成し、各事業所に直接手渡しをして、お願いした。
 - ・田布施町公式ラインや広報誌に案内を出し、多くの方に周知した。
 - ・学校に関わっていただいている方を中心に招待状を作成し、送付した。
- ③会を運営する（10月10日）
 - ・中学3年生100人、地域の方80人が参加。
 - ・「目を大切にする」をテーマにした劇を披露。クイズを出し、健康な体と健康な心について一緒に考えた。
 - ・地域の方と生徒がグループになり一緒に運動した。



タオルでバランス対決



人間知恵の輪で協力

3. 取り組んだ成果

- 小学生も地域の方も楽しく活動することができた。
- モルックの知名度が上がり、地域のスポーツ祭りでもモルックを楽しむ人が多くいた。
- 来年度のさくらまつりに中学生がモルックのブースを出すことが決まった。



- 当日は地域の方と生徒が笑顔で交流し、温かい拍手に包まれながら活動することができた。
- 中学生も地域の方も、つながりを実感し、人の温かさを感じることができた。
- 「来年度も参加したい」というご希望を地域の方からたくさんいただいた。



4. 思ったこと、感想

モルックは、小学生から大人まで一緒になって楽しめるスポーツであることが分かった。この魅力的なスポーツをもっと多くの人に伝えていきたいと思った。自分たちで考えた企画の工夫がうまくいき、企画を作る楽しさを学んだように思う。

学校保健安全委員会では、80人もの多くの地域の方に集まっていたいただいたこと、生徒も地域の方も一緒に楽しんでいただいていたことに達成感を味わった。特にあたたかい拍手に包まれたことは忘れられない。多くの方の協力のおかげで成功できたことに感謝しかない。

5. 今後に向けて

さらに多くの人にスポーツの楽しさや健康な体作りの活動を普及させたいと考えている。

12月17日にさくらまつり実行委員会が行われ、私たち中学生も参加させていただいた。来年度4月に行われる田布施さくらまつりに、モルックのブースを出させていただくことになった。4万人が集まる祭りの中で、多くの人にモルックの楽しさを伝えるためには、どのような企画をしたらよいかを考えていきたい。

モルックは中学2年生、学校保健安全委員会は3年生が中心に企画、運営を行った。後輩に想いをつなぎ、持続可能な取組にしていくことを考えていきたい。



「自分たちの故郷は自分たちで守る！」～防災を「自分ごと」にした私たち中学生の挑戦～

阿武町立阿武中学校

1. チャレンジポイント

「地域防災の主役は私たち中学生だ」という意識をもち、「地域を支える」立場になる

2. 取り組んだこと

(1) まず知る！ 【防災意識の土台づくり】

専門家による防災出前授業、被災地視察研修

- ① 専門家から学ぶ
- ② 被災地に学ぶ



専門家による防災授業

被災地視察研修

(2) 実際にやってみる！ 【地域との協働実践】

地域の防災訓練へ全校で参加

- ① 消防団と土嚢づくり
- ② 避難所テントの設営や片付け
- ③ 炊き出しの準備や運営
- ④ 放水体験
- ⑤ バケツリレー体験



土嚢づくり

避難所テント設営

炊き出しの手伝い

(3) 私たちから発信する！ 【学習成果の還元】

「知る・備える・守る～自然災害と共に未来を生きていくために～」をテーマに文化祭で防災啓発イベントを開催し、学習の成果を地域の方々に発信・共有する

- ① 防災グッズの製作や避難所で必要な物品の調査研究
- ② VRゴーグルを使った災害体験
- ③ 地域住民もキャストに交えた防災劇
- ④ 阿武町への防災対策聞き取り調査
- ⑤ 町民とのパネルディスカッション
- ⑥ 東日本大震災のパネル展示
- ⑦ 製作した防災グッズと非常食の配付



製作した防災グッズと非常食の配付

防災士の方をファシリテーターに迎えて町民とのパネルディスカッション



防災クイズ

VR災害体験

住民参加による防災劇

防災グッズ展示

東日本大震災パネル展示

3. 取り組んだ成果

- 当事者意識が強くなった：「誰かが守ってくれる」ではなく、「自分たちが故郷を守るんだ」という強い責任感を身につけることができた。
- 行動力と自信がついた：避難所テントの設営や土嚢づくりなど、具体的な作業をやり抜いたことで、「いざという時、私たち中学生も役に立つ行動ができる」という自信につながった。
- 地域とのつながりが深まった：私たちの発信を通して、家族や地域全体の防災意識が高まった。また、訓練や文化祭を通じて、住民の皆さんと信頼関係を深め、防災をきっかけとした新しい地域のつながりが生まれた。

4. 思ったこと、感想

被災地の様子を肌で感じたとき、災害の恐ろしさや、亡くなった方の無念さを知り、防災は絶対に「他人ごと」にしてはいけないと強く思った。防災訓練で大人の方々と一緒に作業したときは、体力的に大変なこともあったが、「ありがとう」「助かったよ」という言葉をかけていただき、地域の一員としての誇りを感じた。地域の人と助け合うことの大切さを、様々な取組を通して実感することができた。

5. 今後に向けて

- ① 活動の継続
この取組を学校の伝統とし、後輩へ継承する。
- ② 積極的な情報発信
防災マップやレポートを学校HPや町の広報誌等で公開し、地域全体へ共有する。
- ③ 多世代の防災連携
体力とITスキルを活かし、避難所運営への参画や高齢者宅への声かけ活動など、具体的な協働を提案する。